

## 水の伝言

高塚 かず子

あたらしい年に あたらしい陽がのぼる  
 わたしは 若水という名で汲まれて  
 世界のはじまりを思いだしたところ  
 これから ひとびとの体をめぐり  
 双葉をめぐり  
 この星のすべてのいのちをめぐり  
 果てしない旅を続ける  
 底の見えそうな水源地には  
 できるだけ長くとどまるつもり  
 どうして涸れたままでいられよう  
 わたしは 水  
 いたいけな少女が 飢えや戦争  
 遠い人たちの不幸に涙ぐむとき  
 そっと まつげのふちで耐えている水

木を植えてください  
 酸素を産む木 雨を抱きとめてくれる木を  
 見知らぬ人同士がほほえみあえる この町の  
 足もとの土に 木を植えてください  
 こどもたち あたらしい生命のため  
 心にも 一本の苗木を根付かせてください  
 そのおさない木をめぐり  
 地下水脈のひとしずくになりましょう  
 やがて育った森から湧いて  
 力いっぱい流れましょう  
 ちいさな家の ちいさな食卓で  
 赤ちゃんが ほら  
 コップの中で揺らぐわたしを  
 まじまじとみつめている はじめてのお正月

高塚かず子 詩集『天の水』より